

「仙龍のおばちゃん」への追悼文2

●その後も追悼の言葉が寄せられて！

18日の「行雲流水」で「仙龍のおばちゃん」へ10人からの追悼の言葉を掲載しましたが、その後も次々と…。 ◇ ◇

■突然の災禍のことにおどろきました。浦高と言えば「仙龍」、卒業生の合言葉として伝えられています。是非、再興され現役、卒業生のメモリアルとして営業している姿をお見せください。【荻島英治】

■悲報に接し、言葉を失いました。「よっ先輩！」と独特のきっぷが良く明るくて元気なおばちゃん節、今だ現役で頑張っているおばちゃんの姿を見たのは昨秋の同期会の時が最後でした。仙龍は上履きでも行ける浦高生にとっては学校の一部みたいなもの、おばちゃんは浦高生ために半世紀以上も情熱をささげてくれた方だったと思います。ラグビー部の合宿では、仙龍が運動部に食事を提供し始めた頃で、まさに生活感溢れるご自宅の二階で息子たちの食事の世話をしているお母さんの様でした。心よりご冥福をお祈りいたします。合掌【岸秀雄】

■昨年の同期会の二次会、仙龍の店内に多くの感謝状や色紙が飾ってありました（無事かな？）これを見るだけで、いかに仙龍のおばちゃんと浦高生、OBとのつながりが深いかが偲ばれます。おばちゃんと弟さんのご冥福をお祈りします。合掌！【宮本良明】

■仙龍のおばちゃんが亡くなられたとの訃報を聞き、大変悲しいです。昨年9月の25期同期会の2次会でお目にかかったのが最後になってしまいました。ご冥福を心よりお祈りいたします。【加納正敏】

■香田さん、報を受け、同期会2次会の仙龍での懐かしの青春グルメのひとつを思い出しました。仙龍を取り上げた本（鈴木隆祐著「名門高校青春グルメ」）の頁を紹介します。関東では最も青春グルメに恵まれた浦高生、全くそのとおりでした。

『追悼』浦和の桜が咲いた日に仙龍のおばちゃんが亡くなったとの知らせを受けました。死者の魂は桜の樹の元に眠り、春に花が咲くと共に現世によみがえり、また散っていくという伝えがあります。不老不死と言われたおばちゃんでしたので、これからも、毎年入学卒業の時期に、桜の花と共に、やさしく浦高生を見守ってくれると思います。【若林修】

■悲報を聞いて愕然としました。一報は、自分にとって驚き以外の何物でもありませんでした。この2月に野球部OB会幹事会を仙龍で行なって、相変わらずの美声を十分に聞かせてくれたことが思い浮かびます。振り返れば、50年前野球部の合宿の度に、3度3度ご飯を食べに行って、都度工夫してくれたメニューで身体を気遣ってくれたのかな？と、、、旨かった、美味しかった味は良き思い出です。次のOB会は一体どこでやるのだろうか？なんて不謹慎かもしれませんが、野球部員にとっては現役時代もOBになってからも仙龍の存在は大きかったです。どうぞ、安らかに眠りください。天国で現役生が甲子園に出場したらまた美味しい餃子を、炒飯を、焼きそばをお腹一杯作ってください。約束してください。ご冥福をお祈り申し上げます。合掌【山田稔】



Book cover for '名門高校青春グルメ' by Ryoichi Suzuki, page 114. The cover features a photo of a woman and text about the book. Below the cover, there is a quote: 「鈴木隆祐著『名門高校青春グルメ』114p 『仙龍』より引用」